



【我々に益となる恐れ】

本日の聖書本文:使徒の働き5:11 / 第二コリント7:1

説教者:鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

一週間も主の平安で守られましたか？先週、我々はエルサレム教会のアナニヤとサツピラ夫婦の死について考える時間をもちました。ローマにはローマ教皇庁（きょうこうちょう）の中心地とも言えるペテロカトリックの教会があり、ちょっと離れたところに、小さく造られたパウロ教会があります。ところが、ローマを訪ねる人々は大体ペテロ教会は入場料を払って、並んで、中に入りますが、パウロ教会はガイドさんたちもあまり紹介しないため、ほとんど分からず、通ってしまうようです。しかし、パウロ教会に入ってみるととても意味深いことがあります。パウロ教会の真ん中には使徒パウロのお墓がありますが、不思議なのは使徒パウロのお墓にはパウロの遺体があって、そのすぐ下にテモテの遺体があるということです。初代教会の若い信徒だったが、パウロによって救われ、献身したテモテは一生涯主の教会と福音伝道のために励んで、死んでも使徒パウロの下に埋められました。願わくは、我々の死もアナニヤのようなむなしい死ではなく、パウロのように、テモテのようにとともに主の福音のために、主の教会のために仕え、ともに主の御国に入る祝福されたクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますよう主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！

使徒の働きに出る初代エルサレム教会はこの地上でのどの教会もまねできないとっても恵まれ、祝福された教会でした。聖霊と御言葉と恵みに満たされ、日々宮に集まって、祈りに励み、様々な奇跡とされるしるしが起きて、信徒たちが恐れかしこみ、心と意思を一つにして、物を自分の物ともしないで、畑や家がある人はそれを売った代金を使徒たちに献金し、使徒たちはそれぞれの必要に応じて分け与えるとっても理想的なまさしく地上の小さい御国のような教会でした。しかし、先週も申しあげたように、このような時だったからこそ、アナニヤとサツピラの出来事は敏感にならざるを得ませんでした。彼らが犯した罪は聖霊を欺いて、聖霊の御業に逆らったからです。聖書でよく繰り返される用語にはいつも注意を払わなければなりません。聖霊が充満になり、働かれるとき、いつも喜び、いつも賛美するかと思われませんが、そうではありません。聖霊に満たされたエルサレムの初代教会では神様を恐れながら主の働きに励んだと記録されています。

使徒の働き5章5節に“これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた”、11節にも“そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、非常な恐れが生じた。” ‘恐れが生じた’という言葉が繰り返されています。アナニヤ夫婦の死はすぐ教会全体に知られ、その知らせを聞いた教会と、教会の外側のすべての人々が神を恐れたと記録されています。聖霊の御業によって教会とすべての人たちが恐ろしい恐怖感を感じたのではないかと思います。

愛する信仰の家族のみなさん！

彼らが恐れたのはなんだったのでしょうか。もしかして自分も死ぬかもしれないと思ったからでしょうか？それとも似たような罪を犯したので良心の呵責を受けたからでしょうか？彼らが抱いた恐れは3つのポイントで要約（ようやく）できます。

一つ目は、教会に臨在される聖霊に対する恐れだったと思います。

教会というのは単なる人々の集まりではないことを彼らはアナニヤとサツピラの出来事を通してはっきりと分かったと思います。この世では見ることのできない生きておられる神様の威厳と権威をもった存在が教会にはおられることを体験する機会となったのです。

二つ目は、使徒たちに与えられている霊的権威に対する恐れです。

私の祖母（そぼ）は93才に召されました。私の子供たちにまでだとクリスチャン4代目になりますが、1世代となる祖母にとっては、家族だけでなく、祖母が住んでいた町の中でも始めてイエス様を信じて洗礼を受けられた伝道者でした。お祖父ちゃんからのひどい迫害と苦難の中でも信仰を最後まで守ったお祖母ちゃんのおかげで、後にはおじいちゃんも父を含んだ8人の兄弟、親戚、私たち孫たちまでみんなイエス・キリストを信じて救われました。いまは親戚中、牧師や、宣教師、長老、執事たちがそれぞれの教会で仕え、クリスチャンホームを築いて神様に栄光をささげています。韓国のトンヨンというところで長老として仕えている一番下のおじさんに聞きましたが、祖母からの最後の遺言がこれだったようです。

“一つは、神様の御前で立たされるその日まで謙遜に、しっかりと信仰を守りなさい。そのためには祈る事を忘れてはいけない。二つは、神様のしもべには絶対対抗しないで、愛をもって仕え、最後まで従いなさい。”でした。異端ではないかぎり、この時代の牧会者たちも神様から召され、立たされた者であり、神様から与えられた霊的権威があります。かりに、牧会者が罪を犯して悔い改めないと、そのしもべを立たせた神様ご自身が裁くはずなので、牧師に大敵する必要はないという信仰を一生涯もっておられました。ちょっと間違えば、そのしもべを立たせた神様を大敵してしまうことであることを祖母は90歳まで、教会を開拓し、信仰を守りながら経験されたため、そのような遺言を残したと信じます。それがまさに自分の家庭と子孫が祝福される道である事を信じたため、そのように生きてきた祖母の信

仰と遺言をみな尊く守ろうとしています。

使徒たちの権威はイエス様から与えられた権威であると信徒たちも分かったと思います。この世からみれば、こういった経歴も、立たせる学歴も、バックグラウンドももってない使徒たちですが、神様の御手に置かれ用いられたため、アナニヤ夫婦はペテロの足元の前で一瞬で倒れて死んでしまいました。それを目撃した人々は神様のしもべに対する恐れを持つようになりました。

最後に罪に対する恐れを持つようになりました。罪の報酬は死であるという聖書の御言葉が真理である事実が分かってきたと思います。そして、全能の神様は心で犯した罪、隠れて犯した罪さえもすべてご存じ、裁かれるということをはっきりとわかったと思います。もちろん、自分たちも似たような罪を犯してないか、似たような結果になるのではないかという恐れもあったと思います。しかし、この出来事を通して生じた恐れは確かに、神様が教会全体に向かって与えられた恐れでした。だからこそ、聖霊に対する恐れ、使徒たちに対する恐れ、罪に対する恐れが彼らに生じたと思います。

2. なぜ、神様は初代教会にこのような恐れを許したのでしょうか？

いったい、なぜ神様は恵みに満ちた教会に恐れを許されたと思いますか？聖霊のしるしと不思議なわざが(12節)使徒たちによって行われたのにもかかわらず、エルサレム教会はまだまだ幼い教会でした。生まれて、まもなくよちよち歩く子供のような教会でした。

このような幼い教会に負担をかけながらも恐れるようにされたのでしょうか？

子供の頃を考えて見ましょう。人間は罪の本姓をもっていて、幼い子供でさえも人間ですので、いくらでも意図的に罪を犯せると思います。しかし、特に初めて、子供が悪いことをした時は、厳しく教えなければなりません。子供が始めて悪い事をした時の親の反応は子供の次の行動に大きな影響を与えます。親がどんな態度でその問題を扱うか、どんなに厳しく教えて、その結果に対する恐れを知らせるかによって悪い事を二度としなくなるのです。

我が家の長男であるシンヒョン君が学校のテストの点数が良くなってしばらくテストの紙を隠してうそをついた時があります。もちろん、いまはどんなに点数が悪くても持ってきますが、意図的に隠したり、うそをついた時は、むちを持ってどんなに厳しく教えたのか分かりません。痛いほどむちでたたきながら、親だけではなく、神様にわざとだましたり、うそをつくことはすぐには隠せるかもしれないが、その罪を隠すためにまた、罪を犯し、罪が結局は本当に死にまで至る事を教えたことがあります。子供がまだ小さいうちに、このようにはっきり教えないまま、みのがしてしまうと、子供が大きくなったときはもう手遅れになってしまって、後には親にもっと大きい傷と痛みを与えてしまうか分かりません。ですから、子供が大きくなった頃はもう手遅れだと思います。ですから、特に子供の頃、親がどうやって教えるかによってその子供の将来は左右されることを覚えなければなりません。

神様はこのような父の心で、幼い教会を厳しく戒めたのです。イエス様を信じて、サタンの試みというのがなにであるのか少し分かってきたまだ幼い教会、ひょっとしたら、罪を軽んじて受け入れそうな教会、イエスを信じて救われたからもう大丈夫と思ってしまう弱さをもっていた教会だったからです。一度だけの出来事ですが、聖霊の臨在されている教会に罪が入る事を許してはならない事をお手本としてエルサレム教会の信徒たちに教えてくださったのです。

このような例は、旧約聖書にあります。400年間の奴隷生活から解放されたイスラエルの民は神様が約束された地に入るために荒野での生活を始めました。その時、荒野の聖幕(つまり、荒野教会)が始まったのです。この荒野の教会でもアナニヤ夫婦のような出来事が一回起こりました。レビ記10章に出てくるナダブとアビフのことです。

祭司アロンの子供たちだったナダブとアビフは自分の火皿をとって、その中に火を入れて神様の祭壇に入ったわけですが、ところが、彼らが焼き尽くされて主の前で死んでしまいました。いったいなぜ起こったのでしょうか？

火皿に入った火のためでした。火皿というのは神様の祭壇に良く時、神様が命じた火を入れる道具でした。なのに、息子たちは神様の命じなかった異なった火を神様にささげたのです。だれも知りませんでした。自分たちしか分かりませんでした。

‘火だったら、みな同じ火ではないか...神様の前で特別な火なんかあるだろうか。神様は何でも喜んで受け取ってくださるだろう’と思ったかも知れません。なのに、神様はその場で彼らを焼き尽くして、主の前で死んでしまったと聖書は記録しています。神様はこんなときも幼い教会を厳しく戒めました。

我々はこのような出来事に対して理解しがたく思うと思います。しかし、これは主の幼い教会と主の民への神様側からの強い意志でした。主の御前で礼拝する者はどんな姿勢をもつべきかはっきりと初期の聖幕教会時代に教えて下さったのです。

愛する信仰の家族のみなさん!! アナニヤとサツピラの以後、聖書どこにも二度とこのような出来事は起こりませんでした。新約時代に多くの教会が建てられましたが、献金をすこしだましたということで息を引き取らせることはありませんでした。アナニヤとサツピラのような人が全然いなかったからでしょうか?いないはずがなかったと思います。神様に

献金するとき、信仰の弱い人の中には不満を言ったり、いやいやささげたり、始めの決心とは違って献金をささげた人もきつといたはずで。しかし、主はアナニヤ夫婦の出来事その一回で十分だと思われたかも知れません。なぜでしょうか？ 聖書にこの出来事を記録しておいただけで、これを読むたびに、主の教会が十分教訓として受け取れると思われたと信じます。神をだましてはいけないという教訓です。

教会は神様をだましてはいけません。人はだましても神様をだますことはできないということをアナニヤ夫婦の死を通して分かりました。それだけではなく、教会はどんなに些細（ささい）な事でも、神様の忌み嫌われる罪を許してはいけないことも覚えなければなりません。

<我々が持つべき有益な恐れ 3つ>

神様は信徒たちが神様に対する恐れを持つようにと願っておられます。なぜなら、恐れがあることによって罪を犯す事を防げるし、神様にもっと謙遜に従えるからです。ですから、この恐れは我々にいつも必要であります。何に対する恐れですか？

まずは、聖霊に対する恐れです。私たちの教会は聖霊に対してどれだけの恐れをもって集っているのでしょうか？神様の栄光のために働くと言いますが、どれほど聖霊を意識しながら働いているのでしょうか？

炎（ほのお）のような瞳（ひとみ）で我々の祈り、賛美、心の奥底までたえず、ご覧になっておられる神様をどれだけ意識しながら恐れ、一週間を過ごしているのでしょうか？

自分の親を心から愛する子供であれば、その親がどんなに優しくても、親の言うことには恐れをもって従えるでしょう。神様を愛する者は神様を恐れる心と信仰をもって神様に従う者だと信じます。

二つ目は、教会の指導者に対する恐れを持たなければなりません。昔は、信徒たちが教会の指導者をあまりにも恐れ、近寄りがたい存在として思っていたので、問題がありました。こんにちの牧会者たちには当然、新約時代の使徒たちがもっていたしるしと不思議なわざを行う力はありません。しかし、一つだけは使徒たちと同じです。つまり、神様の御言葉をもって教会を養（やしな）い、指導し、神様の働きと信徒たちのために祈ると言うことです。使徒たちが信徒たちを主の御言葉で教えたように、こんにち牧会者たちが信徒たちを教えます。使徒たちが主の教会を背負ったように、こんにち牧会者たちは教会を責任をもって背負っています。使徒たちが主の教会の信徒たちをかえりみたり、祈りてささえたように、こんにち牧会者たちもそのようにやっています。ですから、初代教会の使徒たちをとおして語られた神様は、こんにち主のしもべである牧会者たちをとおして語られておられます。牧会者が、根本的に間違っていないかぎり、牧会者が神様の御言葉を異端のように自分勝手に解釈しないかぎり、神様は主の教会に立てられた指導者をとおしてさきに語られます。ですから、神様を恐れるようにある程度の恐れを教会の指導者に持つことは正しい、聖書的な信仰に違いないと信じます。

最近、主の教会をみると、そうでない姿をみてどんなに残念で、悲しいか分かりません。驚くほど、牧会者の言葉と指導を軽んじています。この教会や、この牧師じゃなきゃイエス信じないのか？です。この教会でつまずくとあの教会に移って、あの教会に行っても気に入らないなら、他の教会に移ります。結局、旅人のように信仰において浮いてしまう信徒たちが少なくない聞いています。私たちも信仰の根をはずさず、さすらい者にならないように恐れをもって気をつけていきたいと思います。

最後に、神様の御前で罪に対していつも恐れを持たなければなりません。

罪は決して後（のち）の悲惨な結果を見せてくれません。人々は罪の悲惨な結果をさきに分かったならば、きつと罪を犯すことはないと思います。罪はいつもひそかに、持続的に犯し続け、悲惨な結果を迎えてからようやく後悔しますが、もう遅い場合がどれだけ多いのでしょうか。罪というものは罪を犯している間、神を恐れないようにさせます。

主の教会には確かに咎めを受けることと、戒めがあります。ある信徒の過ちを公に戒めるべきであると判断されるとき、当然愛と恐れをもって兄弟の魂と教会のため、イエス・キリストの御名によって戒めるのです。聖書によると、教会がまず、個人的に進め、勧めたのにも関わらず最後まで聞かなかった場合、公に戒めます。そして、戒めを受けた人は、教会からの戒めを主からのものであると謙遜に受け取って、心から悔い改め、自肅することにより、神様と主の教会の前で赦しと回復への新しいチャンスをいただき、その魂は癒され自由にされるのです。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

神様を信じる我々は神様の御言葉に逆らって、イエス・キリストが主であり、聖霊が働いておられる主の教会から戒めと懲らしめを受けないように、神様の御前で恐れをもって信仰を働かせて行きましょう。

<まとめ>

神様がアナニヤ夫婦の死をとおして我々に何を教訓として与えてくださるのかを覚えましょう。

すでに全てをご存知である全能の聖霊を欺くことがないように気をつけましょう。そして、いつも恐れをもって信仰の生活をしましょう。ガラテヤ 6:10 “兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。”使徒パウロもその

ような心構えで生活しました。牧会者も、信徒もだれも自慢できません。牧会者は牧会者なりに神様の御前で恐れかしまなければなりません。信徒たちも神様を恐れることによって自制と罪に対して熾烈に戦って勝つことができるのです。神様の御前でいつも正直に生きること、罪の本姓をもってたえずだましたり、隠そうとする我々の力では決してできません。主が力と恵みをくださるのみできると信じます。ある意味、アナニヤとサツピラはいまの我々のために死んだかもしれません。

神様が彼らと同じ罪を犯さないようにとお手本として用いてくださったのであれば、もし、アナニヤとサツピラが天国にいたら我々はなんとと言えるのでしょうか。“ありがとうございます。あなたがたのお陰でどんなに助かったのか分かりません。あなたがたの犠牲がなかったなら、私も同じ罪を何の恐れもなく犯したことで裁かれたか分からないのに、おかげさまで私が助かりました。”とお礼を言えるのではないのでしょうか？

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！夫婦というのは互いに‘助け合う相手’です。この助け合う相手がアナニヤ夫婦のように罪を犯す事を助け合う者になっては本当にいけません。どちらかの信仰が弱くなって罪を犯そうとしても犯さないように止めるべきであり、どちらかが試みに陥ったときも祈りをもってその試みから勝てるように助けるようにと夫婦として結ばせて下さったのです。そして、これこそがまさに神様が喜んで下さる家族だと信じます。ここに集っているすべての夫婦が神様をもっと恐れ、信仰によって生きるようにと助け合う夫婦、家族となりますよう主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！

【第二コリント 7:1 “愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。”】

사랑하는 믿음의 가족 여러분!

아나니아와 삽비라 부부의 죽음 사건은 성령의 은혜와 사랑이 넘쳤던 초대교회에 있어서 너무나도 충격적이고 두려운 사건이었습니다. 초대 예루살렘교회가 성령의 역사와 은혜 가운데 마냥 사랑하고 축복하고 화합함으로 부흥의 불길이 막 타 오르려던 그 시점에서, 교회가 그 사건으로 인해 결과적으로 어떻게 되었을까요? 죽어가는 사람도 살려야 할 주님의 교회가 되어야 함에도 불구하고, 산 사람이, 더욱이 사람들이 보기에는 믿음이 좋아보이던 사람을 죽음에 이르게 했으니 얼마나 교회가 사람들에게 많은 비난의 대상이 되고, 교회에 시험이 되었을까요?

그러나, 결과적으로 하나님께서는 이런 일을 통해 죄나 위선이 틈타지 못하는 더욱 힘있는 성령의 부흥과 역사로 초대 예루살렘교회는 더 흔들림없고 힘있게 성장하고 부흥하는 계기가 되었습니다. 12-13절을 다함께 보시지요.

오히려 온 교회에 하나님을 두려워하는 마음이 생기고 교회가 새롭게 되니 더 많은 하나님의 능력이 나타나고 교회가 부흥해 나갔습니다. 마치 하나님과 믿는자들 사이에 막힌 것이 없어져 더욱 하나되고 주의 일에 힘쓰는 교회가 된 것입니다. 구체적으로 이 아나니아와 삽비라 사건을 통해 초대 예루살렘교회가 어떻게 변했습니까?

1.주님의 교회가 더욱 마음을 같이하기에 힘쓰게 되었습니다.

본문 12절에 “믿는 사람이 다 마음을 같이하여 솔로몬 행각에 모이고”라고 하였습니다.

분명한 것은 초대 예루살렘교회 성도들은 아나니아와 삽비라 부부가 베드로의 말 한마디에 죽음을 당하는 것을 보고 큰 충격을 받았을 것입니다.

만일 여러분은 이런 모습을 직접 보았다면 어떻게 하겠습니까?

그런데 초대 예루살렘교회 성도들은 이런 무섭고 두려운 현상을 보고 마음을 같이 하여 모였습니다.

이것은 진짜와 가짜가 구분되었다는 것입니다. 아나니아와 삽비라 부부가 죽음을 당하는 사건을 보고 믿음의 사람들은 모여들었고, 믿음이 없는 사람들은 두려워서 떠났습니다.

그래서 본문 13절에 “그 나머지는 감히 그들과 상종하는 사람이 없으나 백성은 칭송하더라”고 하였습니다

여기서 “그 나머지”란 말은 초대 예루살렘교회에 속하지 아니한 믿지 않는 사람들을 가리키며, 그들은 믿는 사람들과 상종하지도 않고 떠나갔습니다.

왜냐하면 아나니아와 삽비라 부부가 베드로의 말 한 마디에 죽는 것을 보고 감히 함부로 말했다가는 어떤 위험이 닥칠지 모르기 때문에 겁이 나서 다 떠나갔습니다.그러나 믿음의 사람들은 모여들었습니다.

이것을 “마음을 같이 하여”라고 했는데, 이것은 부활하신 예수님을 구세주로 고백하는 믿음이 하나가 되었고, 표적과 기사를 체험함으로 오직 예수님만 바라보았다는 뜻입니다.

중요한 것은 볼록렌즈로 햇빛을 한 곳으로 모으면 불을 일으킬 수 있는 것처럼 성경과 기독교 역사를 살펴보면 믿음이 같은 사람들이 한 마음이 되면 놀라운 역사가 일어납니다.

예를 들면 삼상7장에 보면 사무엘 선지자 시대에 이스라엘은 블레셋의 침입으로 많이 힘들고 어려웠습니다.

그래서 사무엘이 “온 이스라엘은 미스바로 모이라 내가 너희를 위하여 여호와께 기도하리라”고 하여서 온 이스라엘은 미스바에 모여서 종일 금식하며 “우리가 여호와께 범죄하였나이다”라고 고백하며 대대적인 회개운동을 일으켰습니다.

그런데 블레셋 사람들은 이스라엘이 미스바에 모인 것이 블레셋과 전쟁을 하기 위한 것인 줄 착각하고 이스라엘과 전쟁을 하려고 몰려왔습니다.

그 때 이스라엘 백성들은 블레셋 사람들이 두려워 사무엘에게 “우리를 위하여 우리 하나님 여호와께 쉬지 말고 부르짖어 우리를 블레셋 사람들의 손에서 구원하시게 하소서”라고 하였습니다.이것을 다르게 표현하면 온 이스라엘이 한 마음이 되어 하나님의 도우심을 기다렸습니다.그래서 하나님은 블레셋 사람들에게 큰 우레를 발하여 어지럽게 하여서 블레셋이 이스라엘 앞에서 패배하게 하셨습니다.그러므로 교회는 서로 자기 고집과 주장만 내세우며 대립하지 말고 마음을 같이 해야 한다는 것은 아무리 강조해도 지나친 것이 아닙니다.

분명한 것은 초대 예루살렘교회는 여러 나라에서 온 사람들이 모였기 때문에 언어가 다르고, 문화도 다르지만 마음을 같이 하였습니다.이렇게 문제와 어려움을 통해 더욱 마음이 하나 되는 것이 교회의 특징입니다.

예를 들면 마10:1-4에 보면 예수께서 부르신 열두 제자의 이름이 나오는데, 특이한 것은 예수님의 제자 가운데는 세리 마태가 있고, 가나나인 시몬이 있습니다.

왜 이것이 특이하냐 하면 "세리"는 로마 제국을 위해 동쪽 이스라엘 백성들에게 세금을 거두는 일을 하였기 때문에 유대인들은 세리를 창녀와 같이 취급할 만큼 싫어했습니다.

그리고 "가나나인"이란 말은 "열심당원"이란 뜻으로 가마라의 유대가 주후 6년에 구레노 총독이 국세조사를 하는 것에 반항하기 위해 조직한 단체로서 로마 제국으로부터 이스라엘의 독립을 쟁취하기 위하여 폭력을 사용하는 일종의 게릴라단체입니다.

그러므로 세리와 열심당원이 만나게 된다면 두 사람 가운데 한 사람이 죽을 때까지 피를 흘리며 싸울 만큼 사이가 안 좋습니다. 그런데 이런 사람들이 예수님의 제자가 되어 3년여 동안을 함께 먹고 마시며 지냈습니다.

이것은 인간의 생각으로는 도무지 하나가 될 수 없는 사이라도 예수님 안에서는 하나가 되는 것이기 때문에 교회는 마음을 같이하는 공동체가 되어야 합니다.

그런데 기억해야 할 것은 본문에서 마음을 같이 했다는 것은 수평적 관계에서 이루어지는 하나가 아니라 수직적 관계에서 이루어진 하나를 말하는 것으로 하나님 말씀에 순종함으로 하나가 되었다는 뜻입니다.

다르게 표현하면 회의를 하여 마음을 같이하기로 결정한 것이 아니라 오직 하나님의 말씀에 순종함으로 저절로 하나가 되었다는 뜻입니다. 옛말에 "사공이 많으면 배가 산으로 간다"고 하였습니다.

그러므로 다른 사람이야 어떻게 하든지 상관하지 말고 내가 먼저 하나님의 말씀대로 순종하기를 더욱 힘쓰면 초대 예루살렘교회처럼 믿는 사람들의 마음이 하나가 되는 역사가 나타나게 될 것입니다.

2. 주님의 교회가 이전보다 더 담대함과 용기를 얻게 되었습니다.

본문 12절에 "믿는 사람이 마음을 같이하여 솔로몬 행각에 모이고"라고 하였습니다.

여기서 "솔로몬 행각"은 당시 예루살렘 성전의 동쪽 외벽을 따라 현관과 같이 만든 건물을 가리킵니다.

그런데 당시 예루살렘 성전은 헤롯 왕이 유대인들의 환심을 사기 위해 약 46년 동안 많은 돈을 들여 건축하였기 때문에 헤롯 성전이라고도 하는데, 솔로몬 행각은 172개의 큰 돌기둥으로 된 아주 큰 건물입니다.

그러므로 초대 예루살렘교회 성도들이 솔로몬 행각에 모였다는 것은 성전 한 가운데서 십자가에 죽으시고 부활하신 예수님을 증거했다는 뜻입니다.

중요한 것은 예루살렘 성전 한 가운데서 예수님의 부활을 증거했다는 것은 예수님을 죽이기로 결정하였던 당시 종교 지도자들을 향한 정면 도전과 같은 것이기 때문에 이 일로 인하여 박해를 받게 되는 것은 너무나 당연합니다.

그러나 초대 예루살렘교회 성도들은 성전 한 가운데서 "너희가 죽인 예수를 하나님이 다시 살리셨고, 다시 심판주로 다시 오실 것이다"라고 선포하였습니다.

이 일은 사도들만 한 것이 아니라 온 성도들이 마음을 같이하여 함께 하였습니다.

그런데 이런 용기가 어디서 온 것입니까?**그것은 부활신앙을 가졌기 때문입니다.**

즉 예수님처럼 죽으면 예수님처럼 살 수 있다는 확실한 부활신앙이 있었기 때문에 박해도 죽음도 두려워하지 않았습니다.

그런데 오늘 우리는 어떠합니까? 너무 안일하게 신앙생활하려고 하지 않습니까?

쉽게 하는 말이 "가정의 평안을 위해서 내가 양보한다" "지는 것이 이기는 것이다"라고 말합니다.

그러나 예수님은 **마10:34에 "내가 세상에 화평을 주러 온 줄로 생각하지 말라 화평이 아니요 검을 주러 왔노라"**고 말씀하셨습니다. 그러므로 우리도 당당하게 예수님을 믿어야 한다고 선포해야 합니다.

그런데 오늘날 많은 교인들이 주일마다 예배드리고, 새벽기도회에 참석하여 열심히 기도하고, 교회에서 성경공부도 많이 하지만 한 가지 안 하는 것이 있습니다. 그것은 전도하는 것입니다.

분명한 것은 전도는 이론이 아니라 사람을 만나서 복음을 전하는 것이며, 복음을 전할 때 놀라운 능력의 역사가 일어납니다. 이것을 **고전1:27에 "하나님께서 세상의 미련한 것들을 택하시 지혜 있는 자들을 부끄럽게 하시고 세상의 약한 것들을 택하시 강한 것들을 부끄럽게 하신다"**라고 하였습니다.

본문 15-16절에 보면 초대 예루살렘교회 성도들은 병든 사람과 더러운 귀신에게 괴로움 받는 사람들을 데리고 와서 다 나음을 얻게 하였습니다. 중요한 것은 그런 사람들을 데려오는 일은 먼저 믿는 사람들이 할 일입니다.

그래서 예수님은 **마28:19에 "너희는 가서 모든 민족을 제자로 삼아 아버지와 아들과 성령의 이름으로 세례를 베풀고 내가 너희에게 분부한 모든 것을 가르쳐 지키게 하라"**고 말씀하셨습니다.

이것을 다르게 표현하면 하나님께서 우리에게 구원의 은혜를 베풀어 주신 후에 바로 하나님의 나라로 불러 하나님께 찬양과 영광을 돌리게 하지 않으시고 이 땅에 살게 하신 것은 예수 믿지 않는 사람들에게 예수님을 전하도록 하기 위함입니다

3.주님의 교회가 더욱 칭찬을 받는 교회가 되었습니다.

본문 13절에 “백성이 칭송하더라”고 하였습니다. 여기서 “백성”이란 예수님을 믿지는 않지만 교회에 대하여 좋게 생각하는 사람들입니다.로마 시대에 우리의 상상을 초월할 만큼 예수 믿는 사람들을 많이 박해했습니다.

그런데 그런 로마가 AD313년에 콘스탄틴대제가 기독교를 국교로 공인하였습니다.어떻게 로마가 기독교 국가가 되었습니까?여러 가지로 설명할 수 있겠지만 무엇보다도 로마의 기독교인들이 칭찬받는 삶을 살았기 때문입니다.

당시의 기록에 보면 로마 사회가 음란과 부정과 부패로 인하여 아주 더럽혀져 있었습니다.

그러나 기독교인들은 박해를 받아 비록 재산은 없고, 권력도 없고, 사는 것이 어려웠지만 그들의 삶이 너무나 깨끗하고, 부모에게 효도하고, 가정을 귀하게 여겨 서로 사랑하고, 부지런하기 때문에 로마의 귀족들이 자녀들의 결혼을 시킬 때 배우자를 기독교인들 가운데서 찾았습니다.

그래서 로마 사회에 기독교가 급속도로 전파되어 그토록 박해하던 나라가 기독교 국가가 되었습니다.

그런데 오늘 우리의 모습은 어떻습니까? 여러분은 예수 믿지 않는 사람들에게 잘한다고 칭찬과 존경을 받고 있습니까?

여러분은 예수 믿고 난 후에 달라졌다는 말을 들었습니까?

중요한 것은 초대 예루살렘교회는 예수 믿지 않는 사람들이 칭송한 결과가 본문 14절에 “믿고 주께로 나아오는 자가 많으니 남녀의 큰 무리더라”고 하였습니다.

그러므로 예수 믿는 사람들은 믿지 않는 사람으로부터 칭찬받는 삶이되어야 합니다.

4.주님의 교회에 더욱 능력이 임했습니다..

본문 15-16절에 “심지어 병든 사람을 메고 거리에 나가 침대와 요 위에 누이고 베드로가 지날 때에 혹 그의 그림자라도 누구에게 덮일까 바라고 예루살렘 부근의 수많은 사람들도 모여 병든 사람과 더러운 귀신에게 괴로움 받는 사람을 데리고 와서 다 나음을 얻으니라”고 하였습니다.

이것은 본문 12절에 “사도들의 손을 통하여 민간에 표적과 기사가 많이 일어나매”라고 한 것의 구체적인 내용입니다.

여기서 우리가 생각해 보아야 할 것은 사도들의 손을 통하여 표적과 기사가 많이 일어나는 것을 보고 병 고침을 받기 위해 병든 사람들을 사도들에게 데리고 왔으면 적극적으로 사도들에게 안수기도를 해 달라고 하지 않고 왜 길 가에 눕혀놓고 베드로가 지날 때에 그림자라도 덮일까 하고 기다리는 너무나 소극적으로 행동하였습니까?

그 이유는 사도들을 통하여 놀라운 능력이 나타나 병든 사람이 낫기도 하였지만 아나니아와 삽비라 부부처럼 잘못하면 당장 죽음을 당하기도 하였기 때문에 두려워서 감히 함부로 하지 못하고 베드로가 지나가는 길에 병든 사람들을 데려다 놓고 그의 그림자라도 덮이기를 바라며 기다렸습니다.

중요한 것은 왜 이런 이야기를 성경에 기록하였습니까? 하나님은 오늘 우리 교회에도 이런 기적과 능력이 나타나기를 원하시기 때문입니다. 동시에 오늘 우리에게도 이렇게 하여 주시겠다는 약속입니다. 그러므로 우리 교회에도 이런 기적과 능력이 나타나기를 원해야 합니다. 기도하면 귀신이 쫓겨나고, 무슨 병이든지 낫는 역사가 일어나기를 원합니다. 왜냐하면 초대 예루살렘교회에 함께 하셨던 하나님은 지금도 살아계시며 세상 끝날까지 우리와 함께 하여 주시겠다고 약속하셨기 때문에 우리 교회에도 이런 하나님의 능력이 나타나 많은 사람들이 나와 믿고 구원받는 역사가 일어나게 되기를 원합니다.

저 천국의 교회가 아닌 이 땅의 지상의 교회는 구원받은 죄인들이 모인 곳이기에 완벽한 교회가 아닙니다. 문제가 없는 교회는 어디에도 없습니다. 문제 없는 것 처럼 보일 뿐이지요. 교회안에 발생하는 문제들로 인해 교회가 어려움과 시련을 당하기도 할 것입니다. 그러나 분명한 것은 성령이 역사하시고 함께하시는 주님의 교회이기에, 반드시 그 문제를 통해 초대 예루살렘교회와 같이 더욱 교회가 하나되어지게 될 것이고, 더 성령의 은혜와 능력이 임해 더욱 힘있게 서가게 될 것이라는 것입니다. 우리 크리스찬 프레이즈 교회도 앞으로 어떤 문제들이 생길지 아무도 모르지만, 분명히 이 문제들을 두려워 말고, 살아계신 하나님만 두려워 합시다. 그리고 반드시 성령 하나님께서 일하셔서 우리 크리스찬 프레이즈 교회도 그분의 능력과 은혜로 굳건히 세워주시고, 힘있게 세워 나가 주실 것을 믿고 확신속에 함께 나아가는 모든 믿음의 가족들이 다 되실 수 있기를 주님의 이름으로 축원합니다 아멘!